

畜産試験場だより

養 鶏 試 験 場

昭和 37 年度 経済能力検定中間成績

晴れた日の青空がめっきり澄んで暑さも降り坂にかかったとはいえ、9月という月には残暑があり、ホットするにはまだ早い季節です。当场でもこの暑さが峠を越えますと、今年の春餌付けした若鶏の産卵も日増しに多くなり、成鶏への組替えや、検定鶏の受入準備等で多忙な時期となります。

37年度の経済能力検定期間もあと残り少なくなりましたが、62週（7月10日）までの中間成績をまとめましたのでお知らせします。

生 存 率

27週（産卵期間の検定開始時）からは10群平均89.4%で最高94.3%、最低79.5%でありました。またこれを餌付時からですと平均83.1%、最高は87.5%、最低77.5%でありました。

飼料摂取量

期間中の1羽1日当たり飼料摂取量平均は109.9瓦で各期別では6期（3月21日～4月17日）が最大で119.7瓦で最小は1期（10月1日～11月28日）の90.0瓦でありました。また飼料要求率は平均20.70で最小2.61、最高3.10でありました。

産 卵 率

産卵率は10群平均70.4%で最高76.2%、最低64.4%でありました。

なお、産卵指数は平均171.1個で最高は187.7個、最低149.7個でありました。

収 支

期間中の収支については検定全期間終了していませんので参考にならないが1羽相当収益は平均244円、最高368円、最低49円でありました。

試験研究

産卵鶏の飼養標準に関する試験

産卵鶏飼料のCP・TDNの第三次試験としてロックホーン種を供用して大雛用飼料のCP・TDNが初産日令、体重、卵重量、その他成績の産卵率、飼料効率等に及ぼす影響について試験調査しております。

産卵鶏に対する赤かび麦の給与試験

本年は麦の収穫期に長期の雨で赤かび麦の発生が多く、被害麦を鶏に給与する場合に悪影響が考えられます。しかし赤かびの種類によって毒性の有無があるので、先ずマウスに被害麦を給与して毒性試験を実施しております。産卵鶏には毒性のある麦を20%、10%、5%各給与してその影響を試験調査しております。

肉用種鶏の交配方式に関する試験

ブロイラー養鶏において発育、飼料効率、商品化率等の経済能力の優れた素雛を生産するための肉用種鶏の交配方式については、未だ十分解明されていないので経済的に優れたブロイラー素雛生産の交配方式について試験調査しております。

ロイコチトゾーン病予防に関する試験

産卵鶏に飼料にピリメサリン及びサルファジメトキシンを添加給与し、ロイコチトゾーン病の予防に対する効果について調査しております。

単飼ケージにおける産卵鶏の複飼管理に関する試験

現在日本での産卵鶏ケージ飼育はケージの間口24cm前後のものへ1羽あて入れて管理するのが通則となっていますが、アメリカ等では2～3羽程度の複飼管理が研究され普及しています。この試験では従来から1羽飼いとして普及している間口14cmのケージに2羽飼いとして単飼の場合と産卵率卵重量、飼料要求率、生存率について比較検討しております。

窓無鶏舎に関する試験

鶏舎内と鶏舎外界を遮断した窓無鶏舎において産卵鶏を管理した場合の影響について調査しております。